

## ●書評

## B O O K R E V I E W

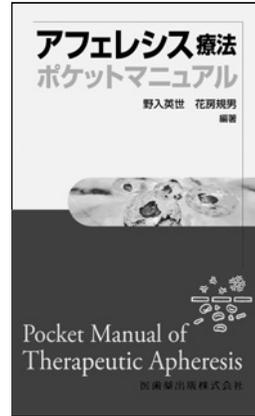
## BR

## 『アフェレシス療法ポケットマニュアル』

(野入英世・花房規男 編著)

●新書判, 286頁 ●定価(3,200円+税)

●医歯薬出版



本書は、アフェレシス療法に関する理論的裏付けと疾患単位での適応、手法、さらにはわが国の保険診療をも網羅し、なおかつ非常にわかりやすくまとめたアフェレシス治療を実践するための成書である。書名からは、想像がつかないほどのポケットには収まりきらないくらいに内容の充実が図られている。本書の特徴として、アフェレシスの理論的背景が前半に解説されており、アフェレシスそのものの入門書として、とくに通読をお勧めしたい部分でもある。技術論に偏ることなく、除去にしる、補充にしる、目的となる物質を意識し、アフェレシスの方法とその治療条件の考え方が理解できるようになっている。したがって、本書はアフェレシス治療に興味をもった若手の医師だけでなく、コメディカル、学生にも役立つ解説書として、ぜひ手元に置きたいお勧めの一冊である。

もちろん、日常診療でアフェレシス療法の適応と考えられる疾患をもつ患者に遭遇した場合に、マニュアル的な使用方法も想定されて、コンパクトに、しかもわかりやすく解説されていることが本書の特徴でもあり、疾患毎の各論も十分に充実したものである。とりわけ、2章にある「血液浄化器の選択」と「治療量・頻度の決定法」は、アフェレシス療法を実施するに当たり、どのアフェレシス法を選択し、どのくらいの置換量で、どのくらいの頻度で治療すべきか、その理論、原理を詳細かつ懇切丁寧に、しかもわかりやすく解説されており、精読をお勧めする。アフェレシス療法も他

の血液浄化療法と同様に、ともすれば画一的な治療が行われがちであるが、実際には、個々の患者の原疾患、病因、体格、循環血漿量に合わせたオーダーメイド型の治療を行うことが求められるものであり、本書はそのことに改めて気づかせてくれる。

したがって、本書を基にすれば、各疾患の治療において具体的な治療計画を論理的に理解でき、医師であれば、的確な治療法の指示が出せるようになるであろうし、臨床工学技士やコメディカルの立場からは、適切な治療条件設定の方法が理解可能となるはずである。またこれらの治療では、わが国の保険診療に合わせた治療頻度なども整理されて記載されており、コメディカル領域を含めた実践的な記載が充実している。

血漿交換を実施する時には、本書を片手に、血漿交換における処理血漿量、治療頻度を、除去物質の特性、患者の体格を基に計算した分布容量から、検討してみてほしい。

本書は理想的なアフェレシスについての実践的マニュアルであるとともに、基礎理論をわかりやすく解説した入門書として多くの方々が手にされ、アフェレシス療法の理解がさらに深まることを期待している。ポケットに入るコンパクトさであるが、その内容の充実度はきわめて高く、得られる情報量は大きい。

(筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻腎臓病態医学分野, 山縣邦弘/やまがたくにひろ)